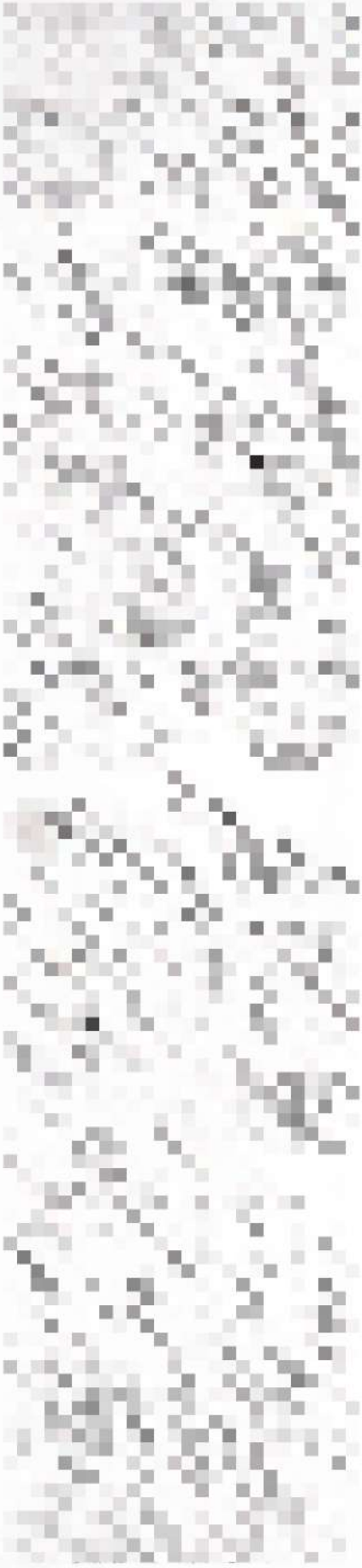
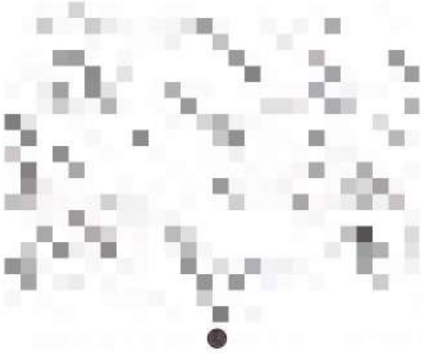
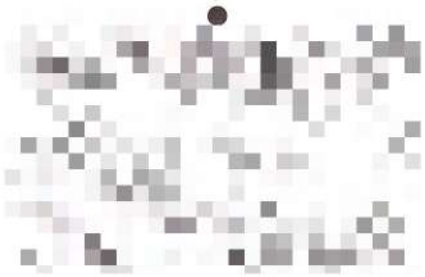
Scramble Shot





Opera チューリヒ歌劇場《ノルマ》

タイトルロールを歌ったチェチーリア・バルトリが芸術監督を務めるザルツブルク聖霊降臨祭からの共同制作オファーを受け、アレクサンダー・ペレイラ総監督時代からの「バルトリ・オペラシリーズ」が続いていくのは、チューリヒのオペラ・ファンには嬉しいことだ。ベッリーニがメゾソプラノのために作曲したベルカント・オペラの、オリジナルな音色を再現させることに力を入れているバルトリが歌うノルマは、聴き慣れたソプラノの響きではないが、その、より内向的な歌唱が今回のパトリス・コリエ&モーシェ・ライザーの演出と上手くマッチしていた。小学校の先生の顔を持つノルマが、ナチスの将校のポリオーネとの愛を選び、髪の毛を散切りにされて火刑に処される読み替え演出は、ともすれば時代錯誤の陳腐な上演になりうるが、ポリオーネ役のジョン・オズボーンとバルトリの、技術に裏付けられた熱唱で、私たちにより身近なドラマとして提示された。ジョヴァンニ・アントニーニ率いるラ・シンティッラが古楽器で奏でるコンパクトでダイレクトなサウンドも、どこにでも起こりうるような悲劇として描くのに貢献していた。そして、フラヴィオ役のライナルド・マシアスやアダルジーザ役のレベカ・オルヴェーラ、オロヴェーゾ役のペテル・カルマンら新旧座付き歌手達も熱演し、合唱までもが熱いメッセージを込めているように観客に訴えかける素晴らしい上演であった。 （中 東生）